

週日の説教

金 大烈 神父 2010年5月5日(水)

《実とは喜びと感謝、結ぶ方法は祈りと愛の実践》

おはようございます

イエス様はご自分のことを『ぶどうの木』だと仰いました。そして御父はそのぶどうの木を世話する『農夫である』と仰いました。そして私達は『そのぶどうの木の枝である。』というのが今日の福音(ヨハネ 15・1-8)の内容です。これにはまずはっきりした条件があります。それは私達はその木につながっていないなければならないことです。では、つながるその方法はなんでしょうか。ひとつには信仰の宣言です。教会が告白した信仰の宣言がありますよね。「天地の創造主、全能の父である神を信じます。～ からだの復活、永遠の命を信じます。」という神様を認め神様に対して向かう心です。「あなたは私の神であり私はあなたに従います。」という基本的な信仰の告白が、まずぶどうの木につながる条件です。

さあ、しかしイエス様はこのようにもおっしゃいました。『つながっているが、実を結ばない枝はみな、農夫である御父がそれを取り除かれる。』そして、「別な所に捨てられて燃やされてしまう」と。それでは実を結ぶとはどういうことでしょうか。神様を認めながら、「あなたの息子」と自分を認めているにもかかわらず、実を結ばなかったら、枝は刈られてしまう。どういう意味でしょうか。簡単です。その結ばれている実には“喜び”があるか、“感謝の心”があるか、そういうことです。何があってもどんな条件でも、皆様の信仰が嬉しくて、その喜びを共にする信仰なら、その信仰はちゃんと正しく実っている結果です。しかし、何か漠然としたこととしてあいまいな信仰、はっきりしない信仰、そういう心持ちであれば、やっぱり喜びとか感謝は生じにくいでしょう。ですから、その実とは“喜びと感謝”です。

それでは私達にとって、ちゃんと実を結ぶ方法は何でしょうか。二つの方法があります。一つはお祈りですね。祈らなくて「私は信者です。信仰者です。」と言うのはありえない話でしょう。さあ、二つ目は何でしょうか。簡単でしょう！なんでしょうか。(誰かが答えたけれども声が小さく、司祭のそれじゃあ聞こえませんよ！に皆が笑った)「行い」そうです。「愛の実践！」ですね。その愛の実践という言葉につながる話を申し上げたいのです。

皆様、仏教徒だった時代のある方は？(数人の手が上がりました。)私よりもよくご存知だと思いますが、仏教には三つの代表的な大きい施しがありますよね。それを「三^{さん}施^せ」と言います。ではその「三施」の一つは何でしょうか。「仏教徒だった方は何人かいらっしやった、のじゃなかったですか。手を上げてくださった方は？ どうですか？」まず三つの施しの一つは「財^{ざい}施^せ」、財産とか財物で人を救う事、施すことを「財^{ざい}施^せ」と言います。二番目は何でしょうか。法律の法と施しを組み合わせ「法^{ほう}施^せ」と読みます。これは法律で施しをすることですがどういう意味でしょうか。仏法を説き聞かせ

る事です。仏教の教えを人々に教え説き、正しい道を歩ませる事です。それを二つの施しとして仏教は教えています。さあ、三番目は何でしょうか。一番大きい施しです。ちょっと難しいですよ。

私は昨日、皆様にイエス様がおっしゃった平和とは何でしょうかと、どんな意味でしょうかと尋ねて、お話をしましたね。その時、私はカトリック教会が、イエス様の教えに従って理解した平和とは、“心の中にある騒ぎ、そして恐れから開放されること”。それが“真の平安な心”である。“平和の意味”であると申し上げました。「人々が持っている恐れを無くす施しこれが一番大きな施し」として仏教は教えているのです。それを漢字で、無^ないの無^む、そして畏敬、恐れ敬うの畏、無^い畏、そして施^むしの施^せ、「無^む畏^い施^せ」と言います。難しい言葉ですよ。「無^む畏^い施^せ」初めて聞きましたか。結局どんな宗教でも正しい宗教と言われているその宗教の教えは、一つの道につながっています。

人を生かせる、私達はその枝としてちゃんと実を結ぶ枝になるためには、まず祈ること、次は人のために、人が不安に陥らないように、人が恐れから解放されるように、私達が努力すること。結局キリスト教的に言えば愛の実践です。

さあ、この二つについて、皆様は自信をお持ちですよ。ちゃんと祈っていらっしゃるし、ちゃんと愛徳を実践しているし、もう恐れは全然ありませんね。そしたら平安な心で平安な顔を保ちましょう。鈍い顔は捨てましょう。

今日の福音の最後に、イエス様はプレゼントの言葉をおっしゃっています。『望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。』しかしこの御言葉をも私達は疑います。不安を感じてしまいます。「本当か、これを願ったら適うのか」と。しかし、イエス様は『何でも』という表現を使ったわけです。子供のような祈りでも、権威ある人の成熟した祈りでも、その祈りが本物ならば聞いてくれる。ですから、幼児が手を合わせて「イエス様、今日人形がほしいのです。」と言えば、その願いさえ聞いて下さるといってお話です。ある人が「貧しくて困っているので宝くじが当たるようにお願いします。」と祈ったら聞いて下さるかも知れません。なぜなら神様の前には皆が子供だからです。あまりにも教養がある祈りをする姿をみせても、神様の目からは、みなその心を読み量られます。「この子供、面白いけれども聞いてあげましょう」と。皆同じです。ですからこの言葉で私達が考えなければならないことは、祈る事です。願う事です。なんでも願う事です。もちろん識別は必要です。

皆様、呪いと祈りとの違いをご存知ですよ。『何でも願いなさい』のこの御言葉の前提は、呪いではいけないことです。呪いと祈りの違いは生かせるか、殺せるかそういうことです。私達はそのことを意識しながら、いいことならば何でも神様が聞いて下さることを、このミサを通してもう一度確認しましょう。

ありがとうございました。